

特用林産に関する研究 (IV)

—ワサビの栽培と加工について—

九州大学農学部 吉良 今朝芳
南寿 敏 郎

1. はじめに

ワサビ (*Wasabia japonica* MATSUM) は近年、旺盛な需要を背景に、九州各県で栽培に取り組む農林家が増加しつつあるが、しかし、栽培技術体系の未確立の現段階では、失敗事例が多く、解決しなければならぬ研究課題も多い。また流通加工についても、その調査研究は全くおこなわれていない状況下にある。

そこで今回は、このワサビの栽培と加工について取り上げ課題への接近を試みた。

2. ワサビ栽培の全国的動向

ワサビはアブラナ科に属し、わが国では香辛料として古くから栽培されている食用植物である。この分布をみると、北は北海道から南は九州・屋久島まで全国各地で山間溪流の清水の湧出しているところに生育している。しかし、ワサビの栽培適地となると、その条件はきびしく限定されるが、自然環境条件の良いところでは、適切な管理によって高い所得が期待できる。したがって、近年は自然食品へのし好の高まりから、全国各地でワサビの栽培が行われるようになった。過去5ヶ年間の生産量と価格の動向をみると表-1のとおりである。新産地が形成され、栽培面積は拡大傾向

表-1 ワサビの生産量と価格の動向

年次	生産量 トン	対前年比	価格 円/kg	対前年比
昭和55年	2,963	—	5,942	—
56	3,290	111	6,066	102
57	3,241	99	5,930	98
58	3,108	96	5,668	96
59	2,840	91	7,473	132

注) 林野庁林産課「特用林産物需給表」より作成した。
を示しているにも拘らず、生産量にはあまり伸びがみられず、しかも価格変動もかなり大きいことがわかる。

3. 九州地方のワサビ栽培

九州地方のワサビ産地をみると、宮崎県北郷町、東西両白杵地方17.3ha、3.6トン、熊本県球磨地方1.7ha、1.3トン、大分県日田地方3.9ha、1.4トン、福岡県八女地

方0.9ha、1.7トン、佐賀県神埼地方の3.6ha、1.6トンなど九州山地を中心に産地化が進んでおり、栽培面積は27.5ha、10.0トンの生産量であるが、全国的なシェアでは、それぞれ3.2%、0.3%といずれも低くなっている。

九州地方のワサビ栽培の本格的な展開は、昭和30年代後半から農林業政策のテコ入れによって、壟石式ワサビ田の開田以降である。しかし、これらの政策的テコ入れによって実施されたもののほとんどは、栽培面積を広くとりすぎ、またワサビ田周辺の栽培環境の悪化によって失敗している場合が多い。それでもその後、栽培面積を狭めたり、また人工庇蔭を施して栽培環境の保全に努めた結果、好成績に転換したところもみられる。例えば福岡県八女郡久木原ワサビ生産組合(組合員6名)は昭和46年に2aのワサビ田を開田しているが、当初は栽培技術が未熟で庇蔭木がなく直射日光をうけて病気が発生し失敗しているが、その後人工庇蔭(ネット)を設けるなどの改善を図って2年後には北九州青果市場に出荷し、1kg当たり8千円以上で販売している。このことで組合員の栽培意欲が増し、適地をみつければ開田しつつあるといった好事例もみられる。

しかし、全般的には農林業構造改善事業などの補助事業でできたワサビ協業体のほとんどが失敗しており、そのまま放置され、事業費の償還だけが残っている実情にある。この原因を考えてみると、その大半は、農林家が栽培経験をもたないまま新規事業にすぐ飛びつき、そこで一度失敗すると、その原因や改善策は考えず、そのままいとも簡単に「あきらめてしまう」タイプの者が多くみられる。九州地方の立地条件では、ワサビ田の広大な面積にわたる開田は、台風による水害をうけやすく、気象条件や地形条件などからみて困難である。それでも、立地条件に恵まれていれば、経費もあまりかけずに、労働力もそれほど必要としない栽培方法を導入すれば、農林家の複合経営の一つの部門として注目される作目のひとつである。

4. 新しい植付方法としてのパイプ栽培

これは、プラスチックパイプを使用して、作土洗い

の終わった田床に3.3㎡当たり50~70本の割合で並列的に4~5cmの深さまで挿入し、このパイプの中央に苗を植付ける方法である。パイプ内の作土表面は乾いていることが必要で水が溜った状態ではよくない。

池沢式によるこのパイプ栽培の試験結果から、つぎのことが明らかになった。

まず長所としては、①ヌクと称する水ゴケが直接ワサビ田の根元に当たらないので軟腐病の発生が激減し、欠株が少なくなった。②毛細根の発育が早い。③冬の落葉の除去が容易である。④分けつが多く、しかも太い良苗が得られ、歩留りが高い。⑤流れに接していないのでカワムシの被害が少ない。⑥欠株が少ないので収量が増加するなどの諸点が上げられる。一方、短所としては、①パイプによって根茎の肥大が抑えられるので根茎の色がやや悪くなる。②アブラムシの発生が多くみられるなどの点である。演習林での試験結果は表-2のとおりである。根茎の生長は著しく、植付2

表-2 池沢式パイプ栽培の試験結果

調査回数	第1回	第2回	第3回(収穫)
調査年月日	56.10.18	57.5.28	57.10.12
根 茎(g)	209	375	460
うち大(g)	(2)73	(2)80	(2)235
中(g)	(13)136	(6)145	(5)85
小(g)		(17)150	(12)140
葉 柄(g)	55	866	70

年目には秋から春にかけて1.8倍に生長し、春から秋にかけては1.2倍の生長である。また分けつの多いことが確認される。

5. 生ワサビの市況と産地の特性

生ワサビの市況を北九州青果市場の入荷量でみると、表-3のとおりである。ワサビの消費需要は周年にわ

表-3 北九州青果市場の生ワサビの入荷量と価格

月	52年		53年		54年		55年		56年		57年		58年		59年	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
	kg	円	kg	円	kg	円	kg	円	kg	円	kg	円	kg	円	kg	円
4	328	4,385	165	4,599	107	6,080	239	4,588	244	4,142	219	4,496	167	6,040	224	4,950
5	230	3,329	247	3,782	231	5,414	258	5,597	151	5,719	172	5,659	202	6,368	222	4,240
6	241	4,816	188	4,098	177	4,596	210	4,986	248	4,566	161	5,908	194	5,405	141	7,057
7	234	3,784	222	4,418	155	5,761	175	6,028	172	5,490	170	5,916	252	5,618	187	7,191
8	208	4,160	177	3,991	177	5,600	189	4,856	175	5,602	4,394	437	185	7,060	134	5,833
9	210	5,066	150	5,673	147	5,359	220	5,447	173	5,804	207	5,611	154	7,024	134	8,853
10	315	4,444	191	4,997	268	4,197	174	4,574	326	4,136	291	4,230	207	4,911	138	6,015
11	249	3,307	233	3,244	250	3,154	175	4,988	221	3,525	218	3,594	140	5,648	221	5,424
12	879	2,282	437	3,248	302	6,098	197	6,417	434	4,211	370	4,420	411	5,235	397	3,611
1	309	2,567	265	3,015	169	5,928	166	5,308	121	5,198	90	6,382	119	6,474	82	5,817
2	208	2,975	142	4,869	121	5,601	150	4,407	244	3,467	366	3,780	104	5,827	112	6,118
3	443	3,143	240	5,178	189	5,440	166	5,834	221	5,207	305	3,778	97	7,613	169	7,379
計	3,854	3,433	2,657	4,087	2,293	5,167	2,319	5,262	2,731	4,585	6,963	1,976	2,232	5,922	2,161	5,659

たっていて、時期によって入荷に多少の増減はあったも、年間を通じて収穫され、生ワサビは青果市場に、原料ワサビは加工業者に出荷されている。したがって生ワサビは通年的に収穫出荷されているが、生長期の4・5月と11・12月にやや多く出荷される傾向がみられる。しかし、個々のワサビ田についてみれば、それぞれ

収穫の適期があるわけで、1年とりか、2年とりかの栽培期間の決め方、根茎の生育状況による決め方などさらに市場における入荷量や価格の動き、病虫害との関連、他作物との家族労働配分など、複雑にからみあって収穫適期が決められている。

また、北九州青果市場に例をとって産地別の特性をみると表-4のとおりである。

表-4 北九州青果市場の生ワサビの産地別入荷量、金額

産地名	数量	単価	金額	構成比	
				数量	金額
	kg	円	円		
東京都	99	11,111	1,100	4.6	9.0
長野県	12	10,833	130	0.5	1.1
静岡県	37	6,265	232	1.7	1.9
島根県	30	3,015	90	1.4	0.7
山口県	287	5,031	1,444	13.3	11.8
熊本県	149	5,023	748	6.9	6.1
大分県	310	3,531	1,095	14.3	8.9
宮崎県	1,153	6,169	7,113	53.4	58.2
福岡県	84	3,304	278	3.9	2.3
計	2,161	5,659	12,230	100.0	100.0

主産地の長野、静岡、島根の3県からの入荷量は全体の3.7%にすぎないが、価格は長野、静岡とも平均を上回っている。九州4県が数量で78.5%を占め、金額でも75.5%となっている。とくに注目されるのは宮崎県北郷町産のワサビが北九州市場の入荷量の53.4%と過半を占め、金額でも58.2%と平均価格を1.09倍上回っていて品質のよいものが出荷されていることである。

6. むすび

ワサビ栽培の技術体系の確立が最大の課題である。とくに水害と暖地性を考慮した栽培システムの確立であろう。例えば九州方式といったものを早急に定着さ

せる必要がある。今後の生ワサビ栽培は大衆消費に対応できるように、安価にして多量に生産し、消費の拡大を図るべきである。そのためには、これまでのようにL級重視の栽培からS級生産への転換が必要である。またスギ林等の林間利用による面積の拡大で、魅力的な規模に誘導すべきであろう。